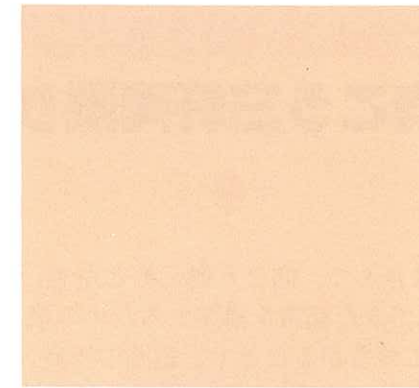
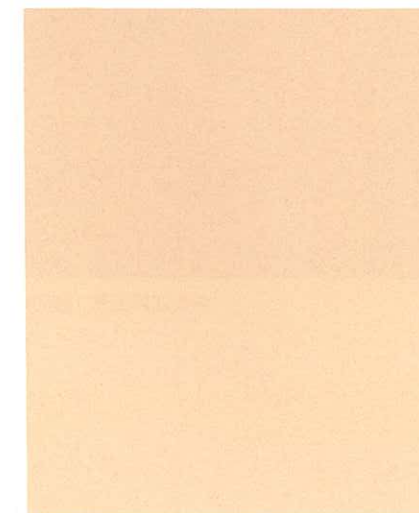
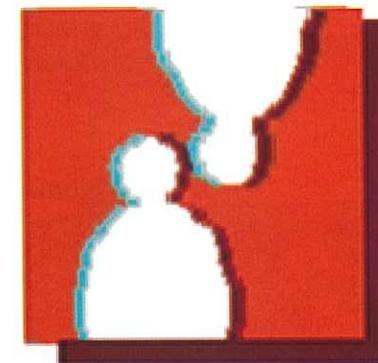




4. 豊かなコミュニティと 繁栄

都心に生きる人々に
活気とやさしさを与える



●向こう三軒両隣り●

共有空間である道路をはさんで、向こう側三軒と左右、両隣で構成する単位は江戸以来継承されてきた都市を構成するための最小単位と言える。この親密な関係が連鎖的につながることで、道路の両側に町（ちょう）をつくり、さらにそれらが集まると、コミュニティ豊かなまちをつくることになる。



名所江戸百景「駿河町」広重作

対処

道路や広場などの共有空間をはさんで両側になりたつ単位のつながりを最大限尊重する。つまり、『向こう三軒両隣り』のユニットのなかでそれぞれの敷地利用、建物のあり方を意識し、考える。

手法例

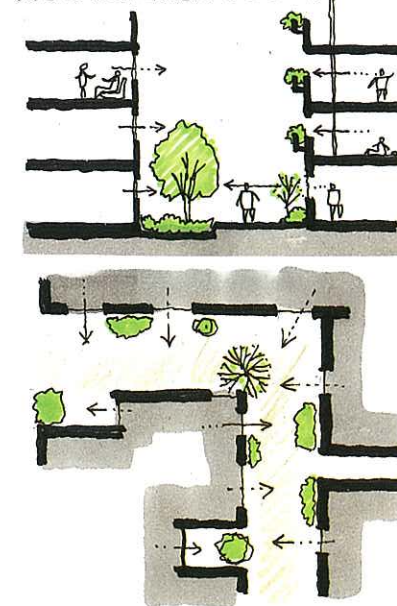
■低層部や壁面、スカイラインのつながり、建物の規模や間口などは、敷地に接する左右両隣、通りをはさんで相対する建物のつながりを形、素材、色などを統一するなどの配慮をする。



■通りが共有された屋外環境として有効に活かされる敷地利用、建物構成を考える。



■建物と建物の関係、建物と屋外空間との関係を良好にするために窓などの開口部の位置や大きさなどに配慮するとよい。



平面配置の場合も相対する関係に配慮する。

関連キーワード

●歩行路ネットワーク●

歩行路は、人々の活動をつなぎ合わせ、生活を支える基盤となるものである。
車を気にすることなく、行きたい場所に安心して行ける
ひとつながりの歩行路が、地域のなかに連続的に確保されて行く必要がある。



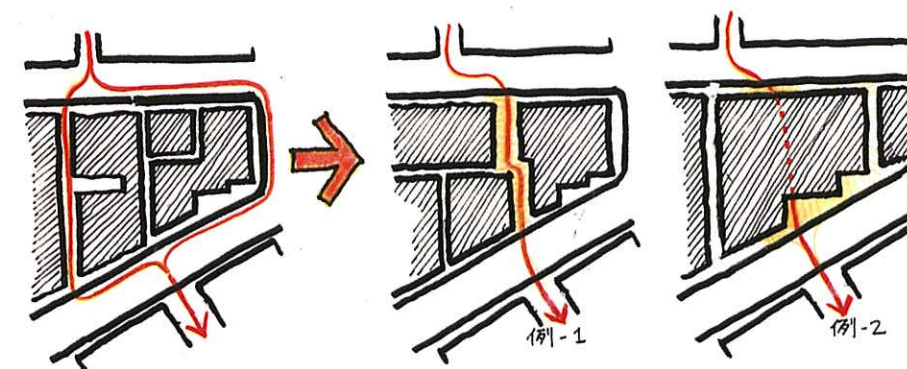
紀尾井坂から外堀の土手へつながる歩行路『喰違見附跡』

対 処

大きな街区にあっては、地域をめぐる歩行路全体のつながりを意識し、歩行活動を魅力的につなぎ合わせるように工夫する。時には、建物内部も歩行路の一部と考えることも良い。

手法例

- 歩行空間が貧弱な区間では、再開発や町並みの修復のなかで歩行路を確保、充実させる。
- 通路は利用者にとって近道でありたい。



- ネットワークの中で重要なポイントには中庭やポケットパークなどを設ける。
- 重要な歩行路に接する建物の低層部は、歩く人々に快適な環境になるよう配慮し、多様な屋外活動を引き出すように工夫する。



関連キーワード

- 広場から広場 ●38
- 活きた路地 ●64
- 人の気配 ●82
- 小さな人だまり ●86
- 中心となる広場 ●102

- 主要な歩行者ネットワークでは、街路樹、街路灯、ストリートファニチャー、舗装材料などを統一、連続させるように調整する。

●交流の場所●

地域には活動の結節点として自然に人を集め、
交流できる場所が必要である。
そのような場所は緊急時にも避難場所となり、
まちにとって不可欠な共有財産となる。



『ちよだフェス』

対 処

主要な歩行路が交わる場所では、住み、働き、集う人々のために活動の中心となる場所を生み出すようにする。またその周辺には地域の公益施設や、商店などを組み合わせて配置することが望ましい。

手法例

- 大規模開発などに合わせて地域にふさわしい公益性の高い施設、不足していると思われる施設などを組み込む。たとえば文化施設、福祉施設、医療、厚生施設などである。
- オープンスペースには日常的に住民が利用できる施設を設けることを考える。できれば地域住民がオープンスペースの設計に参加することが望ましい。



震災復興計画での小学校と児童公園

- 広場や地下を利用して緊急時の支援機能を組み込む。



関連キーワード

- プロムナード ●56
- 陽のあたる場所 ●84
- 座れる場所 ●88
- 祭りの場 ●94
- 中心となる広場 ●102

●人の気配●

人の気配が感じられない広場や建物は、まちに活気を与えない。
活動する人々を風景として見ることで、
そのまちの魅力や個性に触れることができる。
広場や建物から興味深い出来事や活動が感じられれば、
人々の生活情景はより豊かになる。



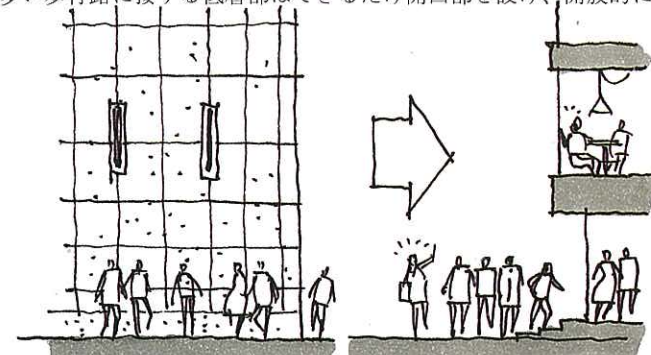
『日比谷シャンテ』

対処

表通りや広場に面した建物の低層部は内部の活動や気配が感じられるように開口部を設けることを原則とする。
建物の中と外の間の『見る』、『見られる』という相互関係は、適度な緊張感も生みだす。

手法例

■人通りの多い歩行路に接する低層部はできるだけ開口部を設け、開放的にする。

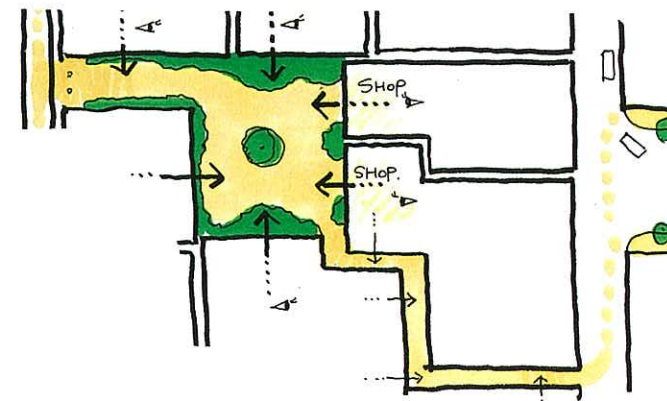


■オフィス街で店舗を計画する際は、道行く人々を楽しく快適な気分にするショーウィンドウやギャラリーなどを設ける。



『日比谷シャンテ』

■行き先のない奥まった場所に広場をつくらざるを得ない場合は、周囲の建物や道路から人の気配がかならず感じられるように配慮する。また近くの主要な歩行者動線と接続させ、人の出入りをうながすようにする。



関連キーワード

- 壁の表情 ●18
- あいだにある住宅 ●58
- 活きた路地 ●64
- 座れる場所 ●88
- 建物の縁 ●108

●陽のあたる場所●

陽のあたる場所は、人々がたたずみ、憩うことができる貴重な場所である。
冬の寒い日、冷たい風がふきぬける陽のあたらない場所は
人々の寄りつかない寂しい場所になってしまう。



『北の丸公園』*

対 処

陽のあたる場所をできるだけ活かすこと。特に公共的な広場や水辺に面する場所では、陽が当たるように建物の配置や形状、外構計画に配慮する。

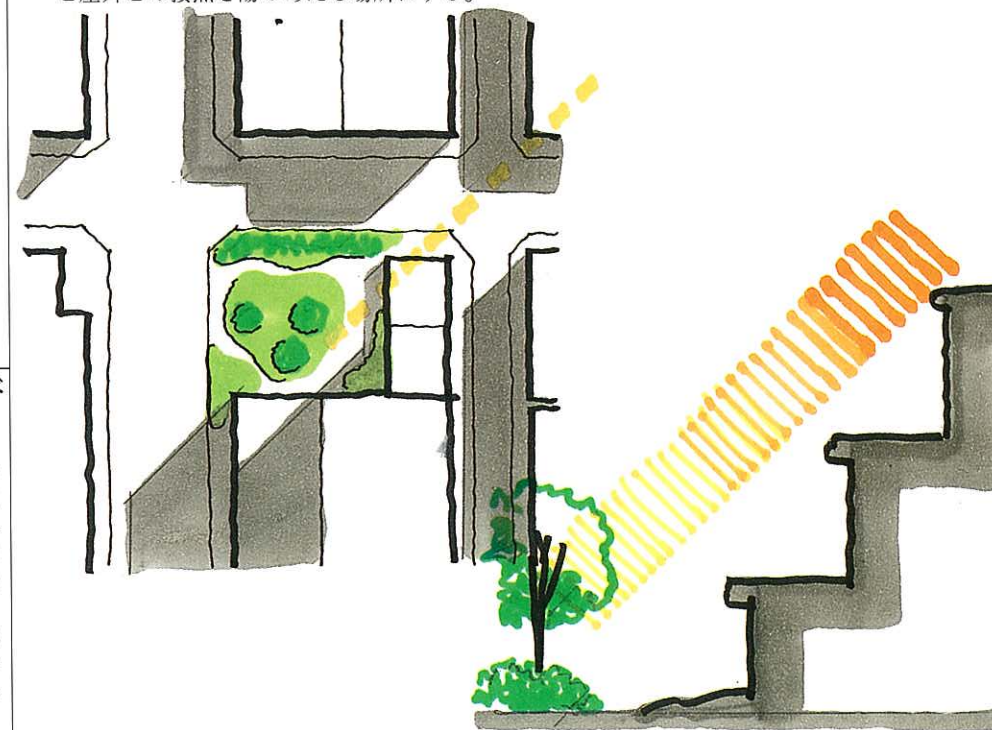
手法例

■陽のあたる場所に人々が集まりやすいたまり場やしかけを工夫する。また、背後に人がよりそえるようなものを配し、陽のあたる方向に開くように広場を設ける。



『アキバふれあい公園』

■北側に空地をとる場合は、それが終日、日影にならぬよう建物の配置、形状に留意し、建物と屋外との接点を陽のあたる場所にする。



関連キーワード

- 眺めの映える場所 ●12
- 屋上の庭 ●44
- 身近な花 ●48
- 小さな人だまり ●86
- 座れる場所 ●88

●小さな人だまり●

人通りの多い表通りや、人がよく集まる広場では、人の流れから少しはずれた所に小さな場所があると、様々な屋外活動にふれながら、ひとときのくつろぎや会話が楽しめる。



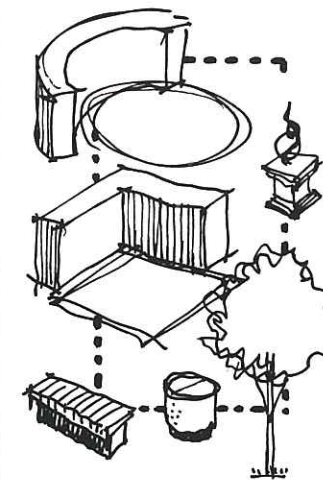
『三正富士見ビル』公開空地

対 処

主な人々の流れから少しはずれた位置に、立ち止まり、話したり、待ち合わせたり、ひと休み…などを考慮したたまりの場所を設ける。その場所は、一部囲むことによってなお居心地のよい場所となる。

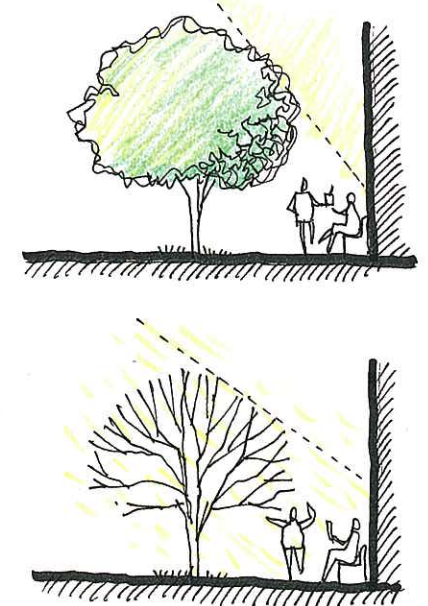
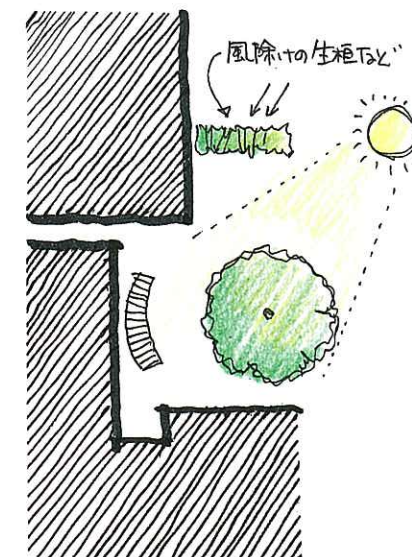
手法例

- たまりの空間は、背後が囲われ、あるいは、より所となる樹木やモニュメントなどが置かれることが好ましい。
- 必要に応じて小さなベンチ、外灯、ゴミ箱などを設ける。



『千代田会館』

- 樹木に落葉樹などを用い、冬は陽だまり、夏は木陰になるように工夫する。



関連キーワード

- プロムナード ●56
- 交流の場所 ●80
- 人の気配 ●82
- 陽のあたる場所 ●84
- 座れる場所 ●88

●座れる場所●

まちを歩いてみると、座って一息入れられるような場所が
思ったより少ないことに気付く。

人々の活発な屋外活動を支える要素として、
まちの所々に座ることのできる場所が必要である。



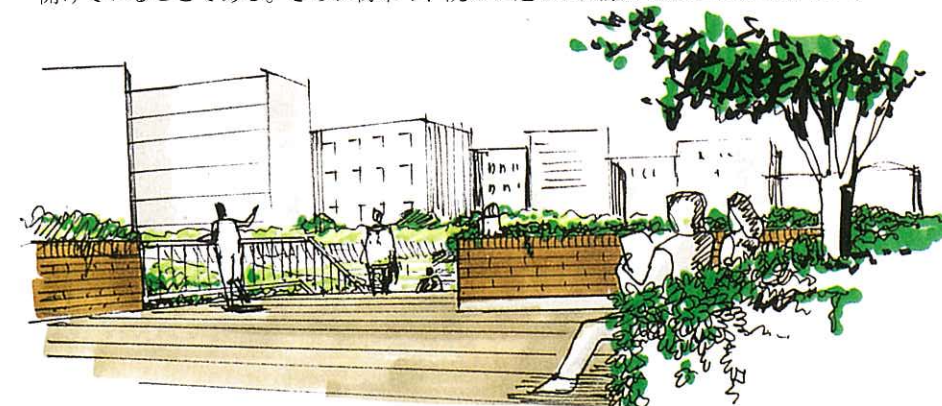
初夏の『日比谷公園』**

対処

人々の活動の接点には、落ちついて座れる場所をできるだけ設ける。
座れる場所は、人の気配や、景色などを眺めることができる場所に設ける。

手法例

■落ちついて座れる場所とは、背後からの視線が無く、適度に囲まれていて、座った前方が開けていることである。さらに樹木や、眺めに適した風景があることが望ましい。



■通常の歩行者動線から少し外し、駐車車両や車の出入りが気にならぬ場所に設置する。

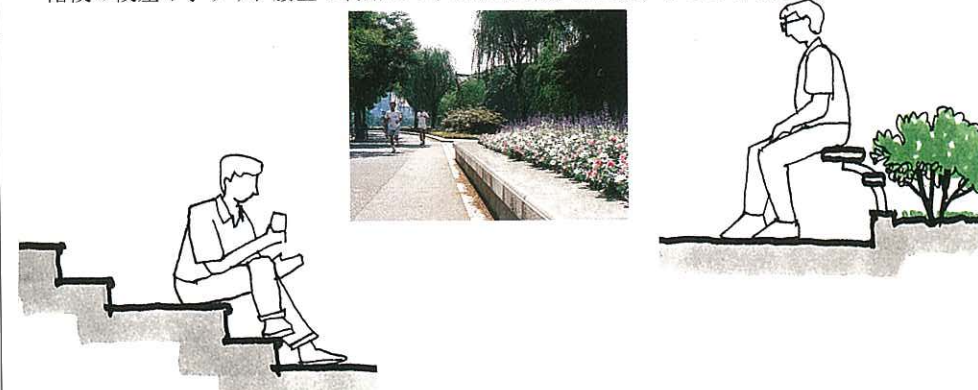


『三正富士見ビル』

■座れる場所の広さや、大きさは、人間的な寸法や形態、素材を採用し、場所に応じて
階段の段差や手すり、腰壁を利用して、座れる部分を工夫することも考える。

関連キーワード

- 眺めの映える場所 ●12
- 身近な花 ●48
- 交流の場所 ●80
- 陽のあたる場所 ●84
- 小さな人だまり ●86



●お年寄り●

住み慣れたまちに住み続けられることは、お年寄りにとって切実な願いである。
お年寄りが、地域のなかで、若い人とのコミュニケーションや、
まちの活動に参加できる機会や場所をつくる必要がある。
お年寄りにやさしいまちは障害を持つ人や子どもたちなどの
社会的弱者に対してもやさしい環境を生み出すことになる。

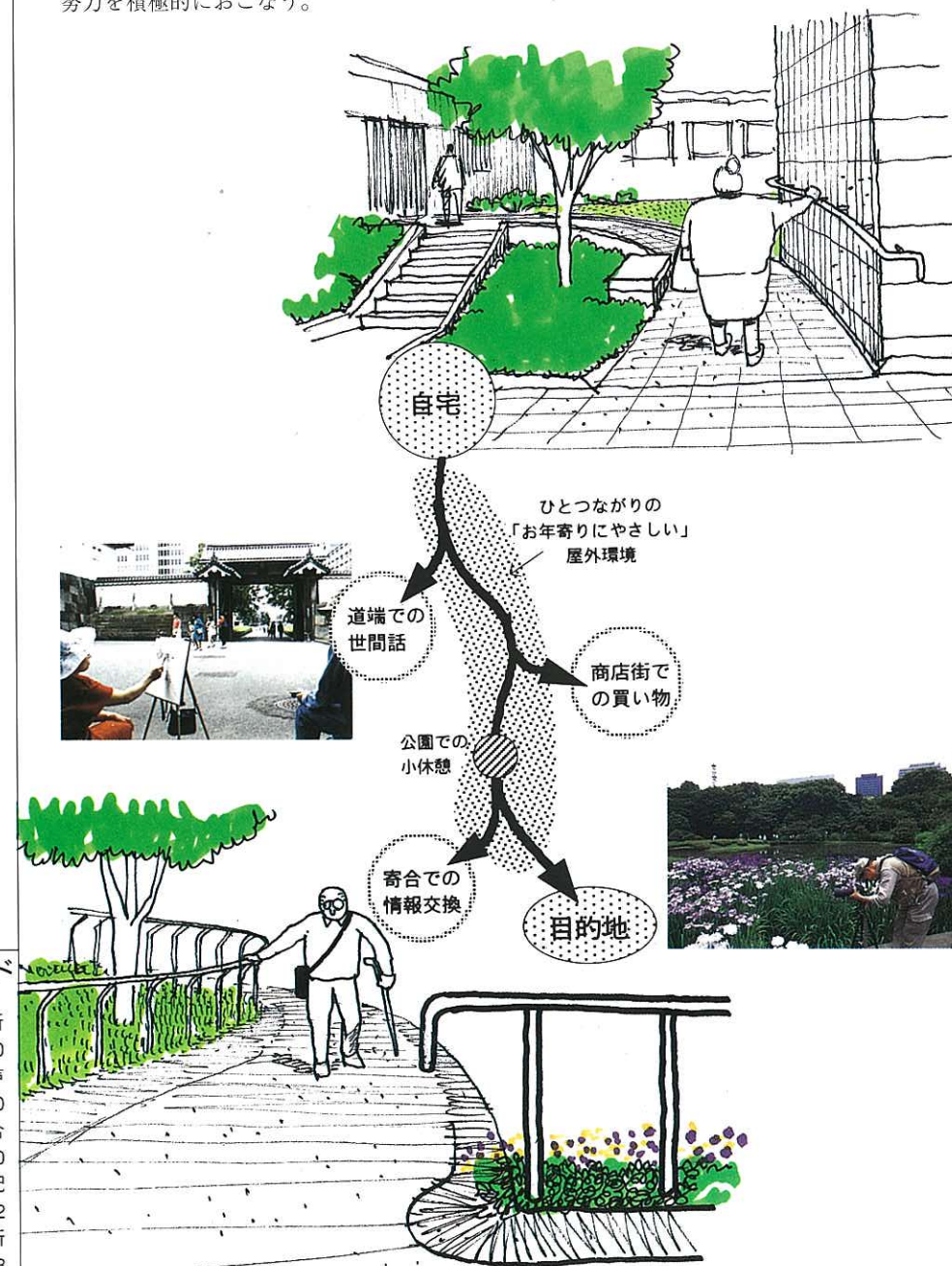


対 処

行きたい場所・行かなければならない場所へいたる安全でやさしい歩行路や
交通環境を整える。
また、地域やコミュニティで子どもや若者と接する機会や場所を設ける。

手法例

■お年寄りが住む場所、行きたい場所・行かなければならない場所については千代田区『福祉
環境整備要項』を参考にして、ひとまとまりの『お年寄りにやさしい』屋外環境を生み出す
努力を積極的におこなう。



関連キーワード

- 心のより所 ●10
- 子供の笑い声 ●50
- 世帯の混合 ●60
- 人の気配 ●82
- 座れる場所 ●88

●夜のにぎわい●

昼間に人が集中する業務地区で、仕事が終わった後、
その周辺でにぎわう場所があると、
働く人々にとってのオアシスとなる。
精力的な都心の昼間の活動を支える場所には、
夜のくつろぎと、にぎわいが必要である。



『有楽町マリオン』

対 処

業務地区に近接して、夜、飲食や歓談など、仕事を越えた人付き合いができる場所、あるいは観劇、買い物、娯楽などを楽しめる場所が用意されることが望ましい。そこには安全な歩行路の確保や各種店舗の集中をはかる。

手法例

■既存のにぎわいが確保されている場所では、新規計画によってこれを分断しない。新規計画をその地域で計画する場合は、低層部を既存のにぎわいの連続性を活かして構成する。



『日比谷シャンテ』



『日比谷シティ』

■働く場所が多い地区にあって夜のにぎわいが無い地域には、新たに生み出すような配慮をする。
■ライトアップ、ショーウィンドなど、夜間、道行く人々にとって楽しい沿道や壁面を生み出す。



『千鳥ヶ淵の夜桜』



『明治生命館』

関連キーワード

モザイク状の町
●54
活きた路地
●64
交流の場所
●80
『都』の魅力
●116



『有楽町ガード下』

●祭りの場●

祭りは、地域の人々にとって大切な出来事であり、地域の活力やコミュニティのつながりを確認する重要な歳事でもある。千代田区における独自の祭りのなかには古本祭り、繊維祭り、電気街祭りなどもあり、伝統的な祭りと相まって、広域的なコミュニティ意識の育成や強化にも役立っている。



『神田明神』の祭り風景*

対処

地域に根づいた祭礼をつうじて、住む、働く、集う様々な立場の人々が一同に交流できる場として、祭りの場を尊重する。そのために、通り、歩行路、広場、各諸施設などが祭りの場や舞台などを提供できるようにする。

手法例

- 御輿ルートに面する建物は祭礼の時に演出協力できるように予め想定しておくこと。
- 地域の祭りやイベントを調べ、それらに貢献できるしかけをつくる。
- 広場や通路をつくる場合は祭礼、歳事などの使われ方を配慮しておく。



『岩本町にて』



『九段会館』



『日枝神社』山王祭*



『ちよだフェス』



『神田神保町』古本祭り*



『千代田区運動会』*

関連キーワード

- 心のより所 ●10
- 人を育む場所 ●26
- あいだにある住宅 ●58
- 交流の場所 ●80
- 『都』の魅力 ●116